

第2回赤磐市まちづくり審議会で取りまとめられた主な意見と対応

項番	意見	対応
1	・赤磐市には市民憲章があるので、冒頭で市民憲章を掲げるべき。	P. 2
2	・冒頭部分の書き出しをインパクトの強いものに。 ・赤磐市が生き残るために必要なことを冒頭に記述するべき。	P. 3
3	・地域の特色（強みと弱み）を客観的に認識すること。 強みの例：山陽インターチェンジ（広域交通）、岡山市に近い（ベッドタウン、連携）、防災、自然環境（水・食糧・燃料・農業） 弱みの例：市中心部に鉄道の駅がない、その他の公共交通網、渋滞、市内に高等学校がない ・大きな方向性での（今後の）戦略的な部分も入れて、強み・弱みを書き加えること。	P. 8～ 第2章赤磐市の現状と課題
4	・どうやって赤磐市が生き残るか、トップ（市長）の意見が総合計画に現れるようにするべき。	P. 24～ 重点戦略 戦略プログラム
5	・重点目標は、「赤磐市として発展していく（経済、教育・住環境等）」ということが大きな枠組みとしてあって、その下に今書いている重点目標のような項目がぶら下がっている。そういった整理で、現在の3つの分け方と内容を再考すること。	P. 24～ 重点戦略 戦略プログラム
6	・「企業誘致」は、産業振興のうちのひとつとするのではなく、重点目標の前面（表題）にも掲げるべき。	P. 24 戦略プログラム
7	・企業誘致も大事であるが、市内の企業・産業が力を発揮できるような方向性も示すべき。	P. 25 戦略プログラム
8	・観光施策について、自然環境の活用のほか、農業なども一つのレジャーと捉える事ができるのではないか。	P. 25 戦略プログラム
9	・国の総合戦略にもあるが、女性（高齢者も含めた）の就労、社会参加も重要	P. 26、29 戦略プログラム
10	・地域で支えあうシステムづくりに関して整理しなおすべき。	P. 29 戦略プログラム
11	・高齢者対策について、定年延長・再雇用の働きかけ等の働く場所づくりや社会参画などの生きがいがづくりが必要。医療費や扶助費の低減にもつながる。	P. 29 戦略プログラム